

## 2023 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	環太平洋文明研究センター
---------	--------------

## I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

本センターは 2022 年度より第 4 期 R-GIRO に参画し、その拠点として活動を継続している。研究については 4 つのグループを組織し、レジリエントな社会や文化のデザインに貢献する新たな学際研究の構築を目指している。

## 1. 顕著な成果

1) 科研費「学術変革領域研究(A)」に第一グループの中川毅教授による「暴れる気候」と人類の過去・現在・未来」(推定計 11 億 4221 万円)が採択されたほか、国際ジャーナルに複数の論文が掲載された。2) ペルーの大学と研究協定を締結した。3) 若手研究者シン・ジュヒョンが昨年度に科学融合財団 FOST 新人賞を受賞した研究をもとにした単著を出版した。4) 中村大・後藤智が「モデルの作成支援システム、コンピュータ実装方法及びコンピュータプログラム」について特許を出願した。

## 2. 各グループの成果

## (1) 第 1 グループ: 「人間の時間スケール」で見た気候変動と災害およびインフラ技術の歴史

チーム1では、福井県水月湖とメキシコのサン・クラウドイオ湖の年縞堆積物の解析などを進め、氷期の中にも気候が「暴れる」時代と「暴れない」時代の切り替わり現象がみられることがさらに高い時間解像度で明らかになった。チーム2では、日本の古代インフラの現代活用を検討するため、ペルーの古代インフラに関する現代活用を比較・考察した。またペルーカトリック大学リバ・アグエロ研究所とペルー日本移民資料館と研究協定を締結した。

## (2) 第 2 グループ: 歴史的知見を生かした食リスクと災害リスク課題解決の提案

チーム1では、近世日本の気候変動と農業生産力との関係を分析するために近江国膳所藩領の区有文書等の史料を分析した他、食リスク・災害リスクの解決に向けて近世日本の備蓄貯蓄制度とその運営方法に関する資料調査を進めた。チーム2では、先史時代の人口動態を明らかにする新たな試みとして縄文時代から近代までのすべての土器点数を集計し、京都大学構内遺跡の人口動態を復元、大洪水による人口動態の影響を明らかにした。また葛籠尾崎の湖底遺跡調査を実施した。

## (3) 第 3 グループ: 食糧危機と災害克服の現在—グローバル/ローカルな視座からのレジリエンスの再考

チーム1では、軍事インフラと食糧等のサプライチェーンの関係性に注目し、軍事インフラの脆弱性と課題に関する特集を『環太平洋文明研究』誌上で組んだ。チーム2では地域の環境特性や社会・文化に適合したローカルな食糧生産・流通・消費システムが飢餓や食糧価格の急騰などの食糧安全保障のリスクの低減や持続的で再生的な土地・海洋の利用にどのように貢献するかについて分析を進めた他、特定地域での災害が海を介して広範囲に影響を与えることを明らかにした。

## (4) 第 4 グループ: 食糧危機・災害に対する人類の未来—文化情報のデザイン化とテクノロジー的解決の再検討

チーム1では、新しいリサーチデザインである「アーキオロジカル・プロトタイプング」の理論モデルの改良および企業との連携による社会実装を進め、同モデルに関する特許を出願した。また圏論を用いたレジリエンスモデルの改良を進めた。チーム2では、災害レジリエンスの教育に資する、シリアスゲームを応用したデジタル・エスノグラフィの開発に取り組んだ。

## 3. 環太平洋文明研究センター、R-GIRO プロジェクト全体としての成果

2023 年度のプロジェクト全体の成果として『環太平洋文明研究』第8号を公刊した。また、中間報告を兼ねてシンポジウム『学際的視点から人類のレジリエンスを問い直す』を開催し、各グループの研究のすり合わせ、レジリエンス概念の問い直し、産学官連携という出口に向けたアイデアの交換を行った。当該シンポジウムの成果は、2024 年度に『環太平洋文明研究』の特集として公表予定である。

## II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2024年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
センター長	小川 さやか	先端総合学術研究科	教授	
運営委員	中川 毅	総合科学技術研究機構	教授	
	ダニエル・サウセド	文学部	准教授	
	山田 圭太郎	立命館グローバルイノベーション研究機構	助教	
	鎌谷 かおる	食マネジメント学部	教授	
	河角 直美	文学部	教授	
	高橋 学	文学部	特任教授	
	矢野 健一	文学部	教授	
	NOXON Corey Tyler	立命館グローバルイノベーション研究機構	助教	
	宮脇 昇	政策科学部	教授	
	玉井 良尚	立命館グローバルイノベーション研究機構	助教	
	中村 大	立命館グローバルイノベーション研究機構	准教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	北場 育子	総合科学技術研究機構	准教授	
	保井 智香子	食マネジメント学部	教授	
	早川 貴	食マネジメント学部	教授	
	岩田 京子	先端総合学術研究科	助手	
	後藤 智	経営学部	教授	
	シン・ジユヒョン	先端総合学術研究科他	非常勤講師	
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員	郡山 志保	立命館グローバルイノベーション研究機構 研究員	
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	有馬 恵子	先端総合学術研究科	博士2年
		福田 浩久	先端総合学術研究科	博士3年
		費一桐	経営学研究科	博士2年
		山上 亜紗美	政策科学研究科	博士4年
		酒向 溪一郎	先端総合学術研究科	博士3年
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
	その他の学内者			

(非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)			
客員協力研究員	尾関 清子	東海学園女子短期大学	名誉教授
	小野 林太郎	国立民族学博物館・人類文明誌研究部	准教授
	中嶋 直樹	日本ラテンアメリカ学会	会員
	北川 淳子	福井県年縞博物館	主任研究員
	宮多良 ディスネル	関西大学	非常勤講師
	近藤 宏	早稲田大学・教育学部複合文化学科	助教
	清水 昭	福島県立医科大学	特任教授
	那須 浩郎	岡山理科大学・教育学部	教授
	魚津(東村) 純子	福井大学・国際地域学部	学部講師
	藤木 利之	岡山理科大学・理学部基礎理学科	准教授
	福本 繁樹	金沢美術工芸大学	非常勤講師
	真邊 彩	鹿児島県・教育庁文化財課指定文化財係	文化財主事
	福本 侑	島根大学エスチュアリー研究センター	客員研究員
	森下 直紀	和光大学・経済経営学部経済学科	准教授
	山田 和芳	早稲田大学・人間科学学術院	教授
	内尾 太一	静岡文化芸術大学・文化政策学部	准教授
	市木 尚利	姫路女学院中学校・高等学校	常勤講師
	富田 敬大	神戸大学・国際文化学研究科	特命助教
	稲垣 文昭	秋田大学・国際資源学研究科	教授
	坂本 勇	東京修復保存センター	顧問
福田 耕治	早稲田大学政治経済学術院	名誉教授	
劉 振業	近畿大学付属看護学校	非常勤講師	
高橋 拓	文化資源活用工房ロフト	代表	
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	外山 秀一	皇學館大学・文学部	教授
	高山 浩司	京都大学・理学研究科	准教授
	森 勇一	東海シニア自然大学	講師
	石田 智恵	早稲田大学・法学学術院	准教授
	上峯 篤史	南山大学・人文学部	准教授
	木村 啓章	大阪府・教育庁	技師
	幡中 光輔	出雲市・文化財課	主事
	中村 豊	徳島大学大学院・社会産業理工学研究部	教授
	遠部 慎	島根大学・法文学部	客員研究員
	宮地 聡一郎	福岡県教育委員会	主査

	栞畑 光博	都城市教育委員会	主幹
	松森 智彦	同志社大学・人文科学研究所	所嘱託研究員
	菅原 大助	東北大学・災害科学国際研究所	准教授
	小野 映介	駒澤大学・文学部	教授
	桐村 喬	皇學館大学	准教授
	丸山 敦	龍谷大学	教授
センター構成員 計 63名 (うち学内の若手研究者 計 6名)			

### Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2024年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	山田 圭太郎	「炭素 14 年代法の世界基準—水月湖の年縞と IntCal」	共著	2023 年 6 月	『特集 推定不能 炭素 14 研究がとらえた未知の巨大太陽フレアの謎』, 国立歴史民俗博物館,	箱崎真隆・橋本雄太編	pp. 39-46
2	Takahiro Tomita	“Changing Use of Dairy Products in Rural Mongolia”	単著	2023 年 7 月	Altay Topluluklari Hayvan ve Hayvancılık, the Union of Turkish World Municipalities (TDBB)		pp. 577-588
3	内尾 太一	「復興の倫理／被災者の尊厳」	単著	2023 年 9 月	日本災害復興学会編『災害復興学事典』, 朝倉書店		pp. 4-5
4	玉井 良尚	「エネルギー資源と地政学」, 「国家間競争と地政学」	共著	2023 年 5 月	『トピックからわかる国際政治の基礎知識』, 芦書房	渡邊啓貴編	pp. 78-81, pp. 94-97
5	小川 さやか	「生活を知る」	単著	2023 年 5 月	『歩くようなはやさで生きる人のためのリベラルアーツ』, NPO 法人シブヤ大学		pp. 65-87
6	小川 さやか	「時間を与え合う—商業経済と人間経済の連環を築く「負債」をめぐる」	単著	2023 年 6 月	『負債と信用の人類学—人間経済の現在』, 以文社		pp. 87-122
7	小川 さやか	「手放すことで自己を打ち立てる—タンザニアのインフォーマル経済における所有・贈与・人格」	単著	2023 年 6 月	『所有とは何か—ヒト・社会・資本主義の起源』, 中央公論新社		pp. 85-142
8	小川 さやか	「[SF]と「人類学」を交差させ、多様な世界の在り方をプロトタイプする」	単著	2023 年 7 月	『未来の「奇縁」はヴェースを超えて——「出会い」と「コラボレーション」の未来を SF プロトタイプング』, プレジデント社		pp. 104-109
9	荘司 一步	“景観で考えるモニュメンタリティーペルー北海岸のマウンド・ビルディングを事例に”	共著	2023 年 12 月	『景観で考える—人類学と考古学からのアプローチ』 臨川書店	河合洋尚・松本雄一・山本睦編	pp. 66-85
10	山本 睦	“第 5 章 景観をめぐる時間の多様性——繰り返えし築かれ、利用される神殿”	共著	2023 年 12 月	『景観で考える：人類学と考古学からのアプローチ』 臨川書店	河合洋尚、松本雄一、山本睦 (編)	pp. 106-124
11	鎌谷 かおる	「江戸時代の堅田の漁業・舟運」	単著	2023 年 10 月	図録『親鸞聖人生誕八五〇年記念企画展 近江堅田本福寺』, 大津市歴史博物館		pp. 54-55
12	鎌谷 かおる	食文化史「お節料理今昔」	単著	2024 年 3 月	『食物と健康』冬号 178 号, 神戸女子大学・神戸女子短期大学食物研究会		pp. 21-23

13	矢野 健一	「京大構内遺跡群の人口動態」	単著	2024年3月	『2023年度企画展 文化財発掘X 比叡山山麓の縄文世界』, 京都大学総合博物館		
14	Noboru Miyawaki	“Implications of Drifting Sanction Policies by Japan and Korea”	共著	2023年	The Routledge Handbook of the Political Economy of Sanctions, Routledge,	Ksenia Kirkham ed	pp. 211-222
15	宮脇 昇	「OSCEの機能」	共著	2023年	『現代ヨーロッパの国際政治』, 法律文化社	広瀬佳一・小久保康之編	pp. 50-67
16	小川 さやか	「第6章 アフリカ タンザニア連合共和国」	共著	2023年11月	『世界のクリスマス百科事典』, 丸善出版	樺山紘一・中牧弘允編	pp. 252-255
17	小川 さやか	「文化人類学者と「偶然」を遊ぶ『ハインソエティ』毎日でも持ち運べる「競り」ゲーム」	共著	2023年11月	『ボードゲームデジャカイガカワル『ボードゲームで社会が変わる』遊戯するケアへ』, 河出書房新社	與那覇潤, 小野卓也,	pp. 95-110
18	小川 さやか	「ただでは起きないために、思いっきり転べ」	共著	2023年12月	『青春ジャック 止められるか、俺たちを2』, 若松プロダクション	大友麻子編	pp. 38-39
19	小川 さやか	「レクチャー1 失敗したらトンズラすればいいーその日暮らしの屋台学」	共著	2023年12月	『日本のまちで屋台が踊る』, 屋台本出版	中村睦美・今村謙人・又吉重太編	pp. 114-137
20	小川 さやか	「待機と賭けータンザニアのインフォーマル経済のレジリエンスをめぐる」	共著	2024年3月	『レジリエンスは動詞であるーアフリカ遊牧社会からの関係／脈略論アプローチ』, 京都大学出版会	湖中真哉・グレタ・センブリチェ・ピーター・リトル・佐川徹・波佐間逸博他	pp. 367-406
21	シン・ジュヒョン	『シリアスゲームの社会的受容を問うー韓国の事例にみる「ゲーム」と「教育」の社会文化的研究』	単著	2024年2月	福村出版		

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	Yamada K., Kitaba I., Nakagawa T.	“Reliable radiocarbon dating of fossil pollen grains: It is truly possible”	共著	2023年7月	Quaternary Geochronology, Elsevier, Vol. 77, 101456,	Omori T., Hori T		有
2	Nakagawa, T.	“Millennial-scale paleotemperature change in the Japan Sea during Marine Isotope Stage 3: Impact of meridional oscillation of the subpolar front” .	共著	2023年9月	Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology, 626, 111713.	Sagawa, T., Hasegawa, T., Narita, Y., Yokoyama, M., Kubota, Y., Okazaki, Y., Goto, A. S., Suzuki, Y., Ikehara, K.,		有
3	玉井 良尚	「水の軍事資源化と国際法の限界」	単著	2023年8月	『月刊技術士』, 日本技術士会, 2023年8月号		pp. 24-27	無
4	富田 敬大	「社会主義モンゴルにおける牧民の移動とその典型的把握ー『モンゴル人民共和国の牧民の移動』を中心として」	単著	2023年6月	『沙漠研究』, 日本沙漠学会, 33巻1号		pp. 17-24	無
5	小川 さやか	「「なぜ人は人を助けるのか」の人類学 無条件の条件 第10回 他者と出会うことの醍醐味」	単著	2023年4月	『一冊の本』, 朝日新聞出版, vol. 28 no. 4		pp. 42-50	無
6	小川 さやか	「賭けと待ちータンザニア移民たちの夢食う人生」	単著	2023年4月	『みすず』, みすず書房, 第65巻第3号		pp. 2-11	無

7	小川 さやか	「社会性の視座のもと、資本主義の未来を考える」	共著	2023年4月	『月間経団連』, 一般社団法人 日本経済団体連合会, 第71巻第4号		pp. 5-20	無
8	小川 さやか	「「なぜ人は人を助けるのか」の人類学 無条件の条件 第11回 自分ではない何者かになるということ」	単著	2023年5月	『一冊の本』, 朝日新聞出版, vol. 28 no. 5		pp. 24-33	無
9	小川 さやか	「「島」から「島」へと渡り歩くータンザニア都市社会を事例に」	単著	2023年5月	『みすず』, みすず書房, 第65巻第4号		pp. 2-12	無
10	小川 さやか	「街の気分と思考「宝石の街で見た博打と貯蓄」	単著	2023年8月	, 『新潮』, 新潮社, 第120巻第8号		pp. 216-218	無
11	小川 さやか	「2040 委員会企画 Future Dialogue 活動報告」	単著	2023年8月	一般社団法人 日本建築協会, Vol. 4No. 1217		pp. 36-37	無
12	斉藤 賢爾	「Ethereum Proof of Stake は持続可能かー スマートコントラクト基盤間競争の観点から考える ー」	共著	2023年9月	『一橋大学経済研究所 Discussion Paper Series A』, 一橋大学経済研究所, No. 748	副島豊, 杉浦俊彦, 北村行伸, 岩村充	pp. 1-30	無
13	シン・ジュヒョン	「「女性ゲーマーは銃を撃つことができるのか?」この質問はなぜ必要なのか」	単著	2023年8月	『Game Generation』, Game Generation, 13, オンライン			無
14	中村 大	「匈奴形成以前の活動」	共著	2023年5月	『日本考古学協会第89回総会 研究発表要旨』, 日本考古学協会	中村大介, ガルダン・ガンバートル	pp. 52	無
15	中村 大	「縄文時代儀礼の構造とゆらぎの合一にみる社会のレジリエンス」	単著	2023年5月	『日本考古学協会第89回総会 研究発表要旨』, 日本考古学協会		pp. 103	無
16	西尾 善太	「【Book Review】生/性を拘束する情動のポリティクス Carlos M. Pioscos III, Affect, Narratives and Politics of Southeast Asian Migration (Routledge, 2021)」	単著	2023年4月	『インターセクション』, 同志社大学都市共生研究センター, 第1巻		pp. 83-88	無
17	西尾 善太	「自律的な知を求めて: フェリド・アラタスとともに」	共著	2023年4月	『インターセクション』, 同志社大学都市共生研究センター, 第1巻	サイエド・ファリード・アラタス, 鈴木尅生	pp. 25-44	無
18	西尾 善太	「Book review of "The Patchwork City: Class, Space, and Politics in Metro Manila"」	単著	2023年8月	『Southeast Asian Studies』, Center for Southeast Asian Studies Kyoto University, Volume 12 (2023) Issue 2		pp. 390-393	無
19	Kitaba, I., Yamada, K Nakagawa, T.	Cryptotephra preserved in Lake Suigetsu (SG14 core) reveals the eruption timing and distribution of ash fall from Japanese volcanoes during the late-glacial to early Holocene.	共著	2024年1月	Quaternary Science Reviews, 324	Albert, P. G., McLean, D., Buckland, H. M., Suzuki, T., Jones, G., Staff, R. A., Vineberg, S., Moriwaki, H., Ishimura, D., Ikehara, K., Manning, C. J., SG14 project members Smith, V. C.		有
20	Yamada, K., Kitaba, I.,	The contemporary stable isotope	共著	2024年1月	Quaternary Science Advances, 13, 100145.	Rex, C. L., Tyler, J. J.,		有

	Nakagawa, T.	hydrology of Lake Suigetsu and surrounding catchment (Japan) and its implications for sediment-derived palaeoclimate records.				Nagaya, K., Staff, R. A., Leng, M. J., Kitagawa, J., Kojima, H.,		
21	Shoji, Kazuho	Starch grains on human teeth as evidence for 4000 BCE potato consumption at the Cruz Verde site, northern coast of Peru.	共著		Journal of Archaeological Science: Reports 51: 104152.	Victor F. Vásquez S, Teresa E. Rosales T		有
22	保井 智香子	「朝食欠食と主観的疲労感・精神的健康との関連～内田クレペリン検査を用いた検討～」	共著	2024年3月	『第13回内田クレペリン精神検査研究会誌』, 内田クレペリン精神検査研究会	小林真帆, 船越正康		有
23	Taichi Uchio	“Bicoastal Resonances: Toward a Cultural Anthropology on JTMD, Debris Hitchhikers, and the Extended Effects of 3.11”	単著	2024年3月	『環太平洋文明研究』第8号, 環太平洋文明研究センター		pp. 1-24	有
24	Taichi Uchio	“Japanese and Easter Island - Ecotourism and the Relationship with Local Residents”	共著	2024年3月	Japanese Journal of Policy and Culture, 32	Brian Harrison	pp. 77-106	有
25	内尾 太一	「災害ナラティブのオンライン収集とマッピング：西日本豪雨の被災地を事例に」	単著	2023年	『じんもんこん（人文科学とコンピュータシンポジウム）2023 論文集』		pp. 137-142	有
26	Kenji Saito,	“Double Impact: Children’s Serious RPG Generation/Play with a Large Language Model for Their Deeper Engagement in Social Issues”	共著	2023年10月	“Joint International Conference on Serious Games”, Springer, JCSG 2023: Serious Games,	Kayo Kobayashi, Waki Takekoshi, Atsuki Hashimoto, Nobukazu Hirai, Akifumi Kimura, Asuka Takahashi, Naoki Yoshioka, Asuto Mano,	pp. 274-289	有
27	矢野 健一, Corey Tyler NOXON,	「土器量からみた人口動態研究の意義—京都市左京区京都大学構内遺跡群の事例研究—」	共著	2024年3月	『環太平洋文明研究』第8号, 環太平洋文明研究センター		pp. 79-90	無
28	矢野 健一	「三内丸山遺跡出土の円筒下層式に伴う枝回転文土器の原体樹種」	単著	2024年3月	『特別史跡三内丸山遺跡 研究紀要』, 三内丸山遺跡センター, 第8号		pp. 34-47	無
29	Corey NOXON	Survey of the Present Conditions of Prehistoric Architectural Reconstructions in the Koshin-etsu Region of Japan	共著	2023年	『慶應義塾大学日吉紀要社会科学』, 第34号, 慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会	John ERTL, Yasuyuki YOSHIDA	pp. 1-56	無
30	Noboru Miyawaki	Shelters in War, Democracy in Resilience	単著	2024年3月	『環太平洋文明研究』第8号, 環太平洋文明研究センター		pp. 25-43	無
31	稲垣 文昭	「未だ続く旧ソ連空間再編——資源地政学とエネルギー安全保障の	単著	2024年2月	慶應義塾, 『三田評論』		pp. 28-33	無

		視点から」						
32	玉井 良尚	「第二次世界大戦期の相模川インフラ開発における軍の役割とは何だったのか」	単著	2024年3月	『環太平洋文明研究』第8号, 環太平洋文明研究センター		pp. 44-59	無
33	小川 さやか	「リファーマビッシュ品を売って儲けよう」	単著	2023年11月	『月刊 みんなく』, 国立民族学博物館, 第47巻第11号		pp. 6-7	無
34	斉藤 賢爾	「メタバースとWeb3, NFT (非代替性トークン), DAO (分散型自律組織) のリアリティ」	共著	2024年12月	『通信ソサイエティマガジン』, 電子情報通信学会, 2023年17巻3号		pp. 219-229	無
35	中村 大	「江戸時代中期における柑橘類栽培の地図化: 『江戸時代中期における諸藩の農作物』のGIS分析」	共著	2024年1月	『山口大学教育学部研究論叢』, 山口大学教育学部, 73巻		pp. 213-222	無
36	小川 さやか	「精読と身体 AI には教えられない知」	単著	2024年2月	『中央公論』, 中央公論新社, 第138巻第3号		pp. 80-89	無
37	小川 さやか	「立岩文体の感染力—生きて在る運動の基盤として」	単著	2024年2月	『現代思想』, 青土社, 2024vol. 52-3		pp. 137-143	無
38	シン・ジュヒョン	「インパクトゲームをめぐる探索的研究—『Unfolded: Camellia Tales』に注目して—」	単著	2024年3月	『科学技術融合振興財団 30周年記念論文集』, 科学技術融合振興財団			無
39	後藤 智	『デザイン研究における生理学的アプローチの動向と課題』	共著	2024年3月	『デザイン科学研究』3 (1)	八重樫文, 永盛祐介, 安藤拓生, 張雪瑩, 三好春陽	pp. 95-116	有
40	後藤 智	『デザイン思考教育の課題と今後の検討』	共著	2024年3月	『デザイン科学研究』3 (1)	林留里	pp. 155-166	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	Daniel Saucedo Segami	Arqueologia Publica y Patrimonio Cultural: Los desafios actuales para la arqueologia peruana	2023年9月26日	Fundacion Wiese, Recuperar para devover: La socializacion del conocimiento, Lima • Fundacion Wiese,	
2	Yuichi Matsumoto	「El maíz y su uso ritual hace 3000 años: evidencias en el centro ceremonial de Campanayuc Rumi, Vilcas Huaman - Ayacucho.」	2023年9月7日	Centro de Culturas Indigenas del Peru - CHIRAPAC, Sara Mama Semilla Sagrada Encuentro Regional: Maiz: Historia, Alimentacion y Economia, Ayacucho • Centro Cultural de la Universidad San Cristobal de Huamanga	Yuri Cavero Palomino
3	Daniel Saucedo Segami	「Diáspora entre Perú y Japón Nuevas perspectivas y posibilidades para la diplomacia científica」	2023年8月16日	Instituto Riva-Agüero & Research Center for Pan-Pacific Civilizations, Nuevas perspectivas sobre la inmigración transnacional entre Perú y Japón, Lima • NOS PUCP	
4	Kitaba I., Nakagawa T.	「Quasi-persistent rhythm in the climate and human activity recorded in a varved sediment from Mayan lowland」	2023年7月	International Union for Quaternary Research, INQUA ROMA 2023, Roma, Sapienza Università di Roma	Omori T., Nasu H., Mollinedo M., Lamb F. H., Davies S., Yamazaki K., Sakaguchi S., Pinzón F., Nagaya K., Torres T., Kurahash, K., Inomata T.,
5	Nakagawa T., Kitaba I.	「A new Lateglacial to early Holocene pollen record from Lake Suigetsu, Japan: Contrast with the N. Atlantic region and implications for human history」	2023年7月	International Union for Quaternary Research, INQUA ROMA 2023, Roma, Sapienza Università di Roma	Tarasov P., Staff R. A., Bronk Ramsey C., Marshall M., Scholaut G., Bryant C., Brauer A., Lamb H. F., Haraguchi T., Gotanda K., Kitagawa H., van der Plicht

					J., Yonenobu H., Omori T., Yokoyama Y., Tada R., Yasuda Y., Suigetsu 2006 Project Members,
6	Yamada K., Kitaba I., Nakagawa T.	「Stable isotope records of fossil pollen in Lake Suigetsu Japan, since the last interglacial」	2023年7月	International Union for Quaternary Research, INQUA ROMA 2023, Roma, Sapienza Università di Roma	Omori T.
7	Yuichi Matsumoto	「Investigaciones arqueológicas en el centro ceremonial de Campanayuq Rumi: Arquitectura, Ritual, y Paisaje」	2023年6月20日	YUNGAS Sociedades Prehispanicas del Litoral, Ciclo de conferencias sobre el Formativo, Lima・Universidad Nacional Mayor de San Marcos	Yuri Cavero Palomino
8	Kazuho Shoji	「Variations in ENSO Recorded on Protothaca thaca Shells and Adaptation Strategies of Maritime Community on the Prehistoric Peruvian North Coast」	2023年5月24日	6th International Sclerochronology Conference, Tokyo・University of Tokyo	Kotaro Shirai, Naoko Murakami-Sugihara
9	Kazuho Shoji, Yuichi Matsumoto	「Possible horticulture in the Pre-ceramic Andes」	2023年4月24日	Building an Integrated Digital Archive of Taiwan Studies, International Workshop “Thinking Hunter-gardeners: Anthropological and Archaeological Approaches”, online	
10	Takahiro Tomita	「Influence of dzuds on rural pastoral production in socialist Mongolia」	2023年8月	The 12th International Congress of Mongolists, Ulaanbaatar・National university of Mongolia	
11	Noboru Miyawaki	「NEA in the wartime in Europe from Japanese Perspective」	2023年6月	The 8th Ulaanbaatar Dialogue on Northeast Asian Security, at Ministry of Foreign Affairs of Mongolia	
12	Satoru Goto	「Development of a scale for measuring design orientation」	2023年6月	European Institute for Advanced Studies in Management, Innovation and Product Development Management 2023, Politecnico di Milano	Takuo Ando, Takuya Nomura
13	Satoru Goto	「The Downside of Organizational Identification on Design Thinking: Problem Finding, Problem Solution, and Solution Implementation」	2023年6月	European Institute for Advanced Studies in Management, Innovation and Product Development Management 2023, Politecnico di Milano	Hikaru Makino, Takuo Ando, Kazaru Yaegashi
14	Sayaka Ogawa	「Diversification Strategies of ‘Self’ and Informality」	2023年6月	埼玉大学人文社会科学部研究科, 国際ワークショップ Asian Urbanism and Urban Informality, 埼玉大学	
15	Sayaka Ogawa	「Session III : Panel Discussion Informality as a cornerstone of rapid and equitable development in Africa」	2023年	Kobe University Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe-Duke Symposium on African Economic Development, 神戸大学	
16	松本 雄一	「忘れられた遺跡は何を語るのかーナスカ地域へのワリ帝国の進出をめぐる新知見ー」	2023年6月17日	ラテンアメリカ協会, アンデス文明研究会, online	
17	Daniel Dante Saucedo Segami, Yuichi Matsumoto, Atsushi Yamamoto	「Los caminos y su valor como Patrimonio Cultural: Un estudio comparativo de los caminos prehispánicos en el distrito de La Molina (Lima, Perú) y los caminos históricos del pueblo de Iide (Yamagata, Japón)」	2023年5月28日	Confederación Académica Nipona, Española y Latinoamericana CANELA, XXXV CONGRESO CANELA, Aichi・Universidad Nanzan	Hiraku Takahashi
18	保井 智香子	「男子大学生の人柄類型・精神健康度と食行動との関連」	2023年9月	日本栄養改善学会, 第70回日本栄養改善学会, 名古屋・名古屋国際会議場	東山明子, 中村富子, 竹山育子, 船越正康
19	保井 智香子	「大学生の居住形態別による食事準備の実態および食生活への意識」	2023年9月	日本栄養改善学会, 第70回日本栄養改善学会, 名古屋・名古屋国際会議場	石田由美子, 本田智巳

20	保井 智香子	「大学生男子サッカー選手の体組成・栄養素等摂取量と競技力・運動能力との関連」	2023年9月	日本スポーツ栄養学会, 第9回日本スポーツ栄養学会, 龍谷大学	佐藤翼, 加納優大, 石崎昌和
21	保井 智香子	「UK 法から考える勝利達成条件 - 柔道競技の場合 -」	2023年9月	日本武道学会, 日本武道学会第56回大会, 大阪教育大学	内村直也, 横山喬之, 齋藤正俊, 船越正康, 東山明子
22	矢野 健一・Corey NOXON	「土器量の変化から人口変化をイメージする—京都大学構内遺跡の事例研究—」	2023年4月	考古学研究会, 第69回研究集会, 岡山大学 ポスター発表	
23	稲垣 文昭	「ロシアを巡る資源と政治」	2023年9月	日本学術会議, 東北地区会議学術講演会「資源をめぐる新しい情勢および鉱山開発地域との対話」, オンライン開催	
24	稲垣 文昭	「ユーラシアのエネルギー地政学: 中央アジアを中心とした旧ソ連諸国の動向」	2023年5月	グローバル・ガバナンス学会, 第16回研究大会, 慶應義塾大学	
25	内尾 太一	「持続可能な養殖漁業と国際エコラベルに関する文化人類学的考察: 宮城県南三陸町の復興過程を通じて」	2023年6月	日本文化人類学会, 第57回研究大会, 県立広島大学	
26	斉藤 賢爾	「Web3 技術のリアリティ」	2023年6月	Interop Tokyo プログラム委員会, Interop Tokyo カンファレンス2023, 千葉県美浜区・幕張メッセ	
27	シン・ジュヒョン,	「シリアスゲームを真面目に入門する」	2023年4月	日本未来学会メディア部会, デジタル・エンターテインメント研究会第63回定例会, オンライン開催	
28	中村 大	「匈奴形成以前の活動」	2023年5月	日本考古学協会, 日本考古学協会第89回総会, 東海大学	中村大介, ガルダン・ガンバートル
29	中村 大	「縄文時代儀礼の構造とゆらぎの合一にみる社会のレジリエンス」	2023年5月	日本考古学協会, 日本考古学協会第89回総会, 東海大学	
30	Atsushi Yamamoto	Dataciones Radiocarbónicas en el Valle del Canar: Cerro Narrío, Loma de Pinzhul y El Bosque	2023年11月	I Encuentro de Arqueología en los Andes Septentrionales. Pontificia Universidad Católica del Ecuador, Quito	Juan Pablo Vargas Diaz, Oscar Arias Espinoza
31	Takahiro Tomita	「Is small-scale dairy production in suburban areas sustainable? Characteristics and transformation of urban and rural relationships in Mongolia」	2023年10月	International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, 19th IUAES-WAU World Anthropology Congress, Delhi・University of Delhi	
32	Noboru Miyawaki	「Japan's Future Defense and Diplomatic Strategy in the New Cold War, ” УҮН ХОЙДА ЗИЙН АЮУЛГҮЙ БАЙДЛЫН ОРЧИНДТУУЛГАМДАЖ БУЙ АСУУДАЛ” ОЛОН УЛСЫН ЭРДЭМ ШИНЖИЛГЭЭНИЙ ХУРАЛ ( УЛААНБААТАР), October 20, 2023」	2023年12月	国際安全保障学会「『冷戦間期』のヨーロッパとOSCEの役割」, 慶応義塾大学	
33	Noboru Miyawaki	「Mongolia's Foreign Policy under the Russian War in Ukraine」	2023年12月	Slavic-Eurasian Research Center 2023 Winter International Symposium, Hokkaido University	
34	Zenta Nishio,	「Trouble and Travel with Jeepney: Thinking about ways to learn attitudes for decolonial」	2023年10月	Decolonial Knowledge with Syed Farid Alatas, 京都市左京区・京都大学	
35	Kenji Saito	「Double Impact: Children's Serious RPG Generation/Play with a Large Language Model for Their Deeper Engagement in Social Issues」	2023年10月	JCSG (Joint Conference on Serious Games), JCSG 2023, Dublin・University of Dublin	Kayo Kobayashi, Waki Takekoshi, Atsuki Hashimoto, Nobukazu Hirai, Akifumi Kimura, Asuka Takahashi, Naoki Yoshioka, Asuto Mano
36	Oki Nakamura	「GIS Analysis of Stone Circles in the Jomon Period and Their Application to Cultural Heritage」	2024年1月	BK21 Four, The 3rd International Conference, Seoul, Korea University (オンライン参加)	
37	Sayaka Ogawa	「Multimodal Anthropology Using Serious Games: Toward a	2024年1月	東京外国語大学フィールドサイエンスコモンズ, アカデミックリサーチ	

		Collaboration of Business, Education, and Anthropology]		と芸術の未来／シンポジウム	
38	山本 睦	「ペルー北部熱帯低地におけるモニユメントの生成—インガタンボ遺跡とトゥルコ遺跡の発掘調査—」	2024年3月	「出ユーラシアの統合的人類学—文明創出メカニズムの解明—」最終全体会議, オンラインポスター発表	大谷博則
39	SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	Una breve introducción a la diplomacia científica	2023年9月	I Foro de Docentes e Investigadores Peruanos en Japón, Asociación Académica Peruano Japonesa y Embajada de Perú en Japón, Auditorio Machu Picchu-Embajada de Perú en Japón	
40	SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	「ヘリテージとレジリエンス:ペルーと日本における考古・歴史遺産の現代活用」	2023年11月	立命館大学環太平洋文明研究センター, R-GIRO 公開シンポジウム「学際的視点から人類のレジリエンスを捉え直す」, 京都市下京区・京都リサーチパーク	
41	サウセド・セガミ・ダニエル/ダンテ	「パブリック考古学と地方自治体—ペルーリマ市における地方自治体との協働にともなう問題とその対策」	2023年12月	古代アメリカ学会, 京都外国語大学, 第28回研究大会	
42	荘司 一步	「プラヤ・クレ0 プラス遺跡における第一次発掘調査概報」	2023年12月	古代アメリカ学会, 京都外国語大学, 第28回研究大会	ディエゴ・カラスコ, ホセ・サムエル・ケレバル
43	山本 睦	「ペルー北部インガタンボ遺跡とトゥルコ遺跡の発掘調査」	2023年12月	第28回古代アメリカ学会研究大会, 京都外国語大学	オスカル・アリアス, 大谷博則
44	山本 睦	「リヤマと神殿社会の展開:ペルー北部における神殿の多様性」	2023年10月	『公開シンポジウム 古代アンデスとリヤマ:文明形成をめぐる新視点』, 山形大学,	
45	山田 圭太郎	「年輪を読み解くための新手法:高純度花粉化石を使った古気候復元」	2023年11月	立命館大学環太平洋文明研究センター, R-GIRO 公開シンポジウム「学際的視点から人類のレジリエンスを捉え直す」, 京都市下京区・京都リサーチパーク,	
46	鎌谷 かおる	「『新しい視点』の創り方—地球研“卒業”後の研究から見えてくること—」	2023年10月	令和5(2023)年度地球研プロジェクト今昔ダイアログ, 京都市北区・大学共同利用機関法人 人間文化研究機構総合地球環境学研究所	
47	鎌谷 かおる	「自然の『恵み』と『災い』の境界線—過去の人々の自然観を手がかりに—」	2023年11月	立命館大学環太平洋文明研究センター, R-GIRO 公開シンポジウム「学際的視点から人類のレジリエンスを捉え直す」, 京都市下京区・京都リサーチパーク	
48	鎌谷 かおる	「食文化から考える『もどき料理』の可能性—現代社会に向けた『おいしさ』の提案」	2024年2月	和食文化学会, 和食文化学会研究大会, 東京都豊島区・女子栄養大学短期大学 ポスター発表	豊島千帆, 尾崎隼仁, 栗井春奈, 貞廣涼佳, 三浦加帆, 雲日真利, 倉本恵梨, 山野井豪,
49	鎌谷 かおる	「食文化を未来へ繋ぐ意味を考える—「菓都大津」再興プロジェクトの取り組みを事例に」	2024年3月	日本家政学会食文化研究部会3月例会, 立命館大学食マネジメント学会研究大会, 滋賀県草津市・立命館大学びわこくさつキャンパス	
50	鎌谷 かおる	「過去の知見を活かした現代社会に寄り添う『もどき料理』の提案」	2024年3月	日本家政学会食文化研究部会3月例会, 立命館大学食マネジメント学会研究大会, 滋賀県草津市・立命館大学びわこくさつキャンパス	三浦加帆, 尾崎隼仁, 栗井春奈, 貞廣涼佳, 豊島千帆, 雲日真利, 倉本恵梨, 山野井豪
51	保井 智香子	「大学生男子陸上競技における短距離選手と長距離選手の性格特性および昼食摂取に関する検討—内田クレベリン検査による検討—」	2023年10月	日本スポーツ心理学会, 日本スポーツ心理学会第50回大会, 東京都・東京大学	船越正康
52	保井 智香子	「大学生を対象としたリーフレット配布による朝食摂取の啓発に関する検討」	2023年9月	日本栄養改善学会近畿支部, 第22回日本栄養改善学会近畿支部学術総会, 奈良県・奈良女子大学	石崎昌和, 石田由美子, 柳原八起
53	保井 智香子	「災害時の備蓄食の状況と栄養素等摂取量の推定」	2023年3月	日本健康体力栄養学会, 第31回日本健康体力栄養学会, 愛媛県・岡山理科大学	赤田裕菜, 中村絵美, 高尾理樹夫, 荒木一視
54	保井 智香子	「なにわの伝統野菜に関する認知度調査における世代間の比較」	2023年3月	日本健康体力栄養学会, 第31回日本健康体力栄養学会, 愛媛県・岡山理科大学	中村絵美, 金岡有奈, 高尾理樹夫

55	保井 智香子	「人柄類型別朝食欠食による精神的健康と曲線変化」	2024年3月	内田クレペリン精神技術研究会, 第13回内田クレペリン精神技術研究会, 大阪府・大阪商業大学	石崎昌和, 山下歩, 東山明子
56	保井 智香子	「備蓄食・ローリングストック法を活用した食事・栄養摂取に関する検討」	2024年3月	日本地理学会, 2024年日本地理学会春季学術大会シンポジウム, 東京都・青山学院大学	
57	Corey Tyler NOXON	「考古学における3Dスキャン:プロジェクト計画、データの再利用と社会利用」	2023年11月	立命館大学環太平洋文明研究センター, R-GIRO公開シンポジウム「学際的視点から人類のレジリエンスを捉え直す」, 京都市下京区・京都市サーチパーク	
58	郡山 志保	「近世日本における“食リスク”に対する公権力の対応」	2023年11月	立命館大学環太平洋文明研究センター, R-GIRO公開シンポジウム「学際的視点から人類のレジリエンスを捉え直す」京都市下京区・京都市サーチパーク	
59	郡山 志保	「江戸時代の備蓄食物—東北・九州地方を事例に—」	2024年2月	和食文化学会, 和食文化学会研究大会, 東京都豊島区・女子栄養大学短期大学	
60	内尾 太一	「3.11 大津波と太平洋沿岸地域のレジリエンスの諸相」	2023年11月	立命館大学環太平洋文明研究センター, R-GIRO公開シンポジウム「学際的視点から人類のレジリエンスを捉え直す」, 京都市下京区・京都市サーチパーク	
61	内尾 太一	「南三陸町の文化人類学:ここから深くへ、ここから遠くへ」	2023年11月	第二回南三陸いのちめぐるまち学会大会, 入谷公民館	
62	内尾 太一	「災害ナラティブのオンライン収集とマッピング:西日本豪雨の被災地を事例に」	2023年12月	じんもんこん(人文科学とコンピュータシンポジウム)2023, zoom・ovoiceによるオンライン開催	
63	玉井 良尚	「軍隊は社会インフラ(水インフラ)の破壊者なのか?」	2023年11月	立命館大学環太平洋文明研究センター, R-GIRO公開シンポジウム「学際的視点から人類のレジリエンスを捉え直す」, 京都市下京区・京都市サーチパーク	
64	富田 敬大	「Environmental and Cultural Interaction in Modern Mongolia」	2024年1月	PPIA ウィンターミーティング, 仙台・東北大学東北アジア研究センター	
65	富田 敬大	「近現代モンゴルにおける自然・動物・人の関係」	2024年3月	人間文化研究機構グローバル地域研究プログラム2023年度研究員全体会合, 吹田・国立民族学博物館	
66	山上 亜紗美	「EUの対ロシア制裁の特徴」	2023年12月	日本公共政策学会関西支部会, 第77回例会, オンライン	
67	西尾 善太	「コンヴィヴィアル・インフラストラクチャー:グローバルサウス都市における共生と自立の様態」	2023年10月	白山人類学研究会, 2023年度第7回白山文化人類学研究会, 東京都文京区・東洋大学	
68	斎藤 賢爾	自律分散社会フォーラム, 2023年11月 れいれいフォーラム, オンライン開催	2023年11月	「自律分散社会にとってのAGI(人工汎用知能)」	
69	中村 大	「アーキオロジカル・プロトタイピングの可能性」	2023年11月	立命館大学環太平洋文明研究センター, R-GIRO公開シンポジウム「学際的視点から人類のレジリエンスを捉え直す」, 京都市下京区・京都市サーチパーク	
70	シン・ジュヒョン, 小川 さやか	「災害・危機に対するレジリエンス強化のためのシリアスゲームの可能性と課題」	2023年11月	立命館大学環太平洋文明研究センター, R-GIRO公開シンポジウム「学際的視点から人類のレジリエンスを捉え直す」, 京都市下京区・京都市サーチパーク	
71	小川 さやか	「パネルディスカッション」	2023年11月	神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート拠点, 人口減社会における越境・家族・国家」シンポジウム「日本を選ぶ(残る)理由 日本を選ばない(去る)理由」, 神戸市灘区・神戸大学	
72	小川 さやか	「発表1-4に対するコメント」	2023年12月	日本文化人類学会, 日本文化人類学会 次世代育成セミナー, 小平市・東	

				京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	
73	小川 さやか	「パネルディスカッション」	2023年12月	比較考古学研究会, 『万物の黎明』 公刊記念シンポジウム (2023年度 第1回 比較考古学研究会), オンライン開催	
74	小川 さやか	「コメント: SNS は移動と空間をどのように変えるのか: バングラデシュのヒジャビ・ライダーの事例から」	2024年2月	神戸大学国際文化学術研究推進インスティテュート拠点, テクノロジーとモビリティの拡張による距離と境界の再構築: 空間・身体・イデオロギーワークショップ, 神戸市灘区・神戸大学	
75	斎藤 賢爾	「ブロックチェーン技術の来し方行く末」	2024年2月	SBI 金融経済研究所, FinTech 研究会, 東京都港区・SBI 金融経済研究所	
76	中村 大	「山城地域の遺跡 (GIS、弥生・古墳時代)」	2024年2月	科学研究費補助金基盤(B)『初期国家形成期における山城地域の地域開発と地方政体の成長に関する包括的研究』, 2023年度検討会, 京都市北区・立命館大学衣笠キャンパス	長友朋子,
77	中村 大	「B05 班: 先史人類の人口動態に関する研究」	2024年3月	学術変革領域研究(A) 統合生物考古学(IBA), 2023年度全体会議, 京都市下京区・ホテルグランヴィア京都	
78	後藤 智	「今企業が潜在的に人文社会科学の方法論を求めている(けど気付いてない)」	2024年3月	GPSP「異分野融合創出に向けた研究者交流プラットフォーム構築」, プロジェクト成果報告会, 京都市北区・立命館大学衣笠キャンパス	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	公開シンポジウム「学際的視点から人類のレジリエンスを捉え直す」	京都市リサーチパーク	2023年11月	30名	環太平洋文明研究センター

5. その他研究活動 (報道発表や講演会等)					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間	
1	山田 圭太郎	「進花粉分析 「年代のものさし」 精度向上へ」	福井新聞	2023年9月	
2	保井 智香子	「新大学生らに朝食教育を」	京都新聞 13面	2023年4月	
3	保井 智香子	「新大学生らに朝食スキルを 欠食は体力、知力に影響」	苫小牧民報 電子版	2023年4月	
4	玉井 良尚	「ダム攻撃『危険』国際人道法に禁止明記」	共同通信配信, 福島民友新聞及び信濃毎日新聞等に掲載	2023年6月11日	
5	中川 毅	「水月湖研究の30年: 世界のレイク・スイゲツはどこから来て、どこへ向かうのか」	福井県年縞博物館主催「レイク・スイゲツ: 年縞研究のフロンティア」, 福井県若狭町パレア若狭	2023年9月	
6	郡山 志保	「江戸時代の防災対策」	加西市教育委員会主催「加西の歴史再発見講座」, 加西市・加西市中央公民館	2023年8月	
7	保井 智香子	熱中症対策講座」	滋賀大学体育会主催, 彦根市・滋賀大学	2023年8月	
8	保井 智香子	「指導者が知っておきたい中学球児のためのスポーツ栄養講習会」	滋賀県指導者講習会, 東近江市・能登川中学校	2023年8月	
9	Taichi Uchio	"Dignity After the March 11, 2011 Earthquake and Tsunami: An Ethnography of Post-Tsunami Mariculture Reconstruction in Japan"	In-person and Online Seminar, Oregon State University	2023年8月	
10	宮脇 昇	「ウクライナ侵攻後の国際公共政策 狭間の国モンゴルから」	立命館大学父母教育後援会, 京都市	2023年6月	

11	小川 さやか	「時間をあたえあうータンザニアの零細商人の贈与論」	2023 年度春学期東京大学東アジア藝文書院学術フロンティア講義、東京都文京区・東アジア藝文書院	2023 年 4 月
12	小川 さやか	「これからの幸せ」	浄土宗開宗 850 年記念・法然フォーラム in 仙台、仙台市青葉区・電力ホール	2023 年 5 月
13	小川 さやか	「新しい未来を切り拓く想像力のタネ」	静岡学園中学校・高等学校第 58 回 開校記念式及び記念講演、静岡市葵区・静岡市民文化会館	2023 年 5 月
14	小川 さやか	「(第 1 回) 笑いに満ち溢れた世界一窮地に陥った時の人間行為と笑いー」	演奏藝術センターカリキュラム (オムニバス授業)「オムニバス講座 先端知を識る」, 東京都台東区・東京藝術大学	2023 年 6 月
15	小川 さやか	「((第 2 回) 時間をあたえあうータンザニアの零細商人の贈与論ー」	演奏藝術センターカリキュラム (オムニバス授業)「オムニバス講座 先端知を識る」, 東京都台東区・東京藝術大学	2023 年 6 月
16	後藤 智	「デザインマネジメントとインクルージョン」	【SDGs を考える】, オンライン開催, 京都市中京区・立命館大学朱雀キャンパス	2023 年 7 月
17	後藤 智	「別府デザイン思考フィールドワーク」	立命館大学 EDGE+R プログラム, 別府市・立命館アジア太平洋大学	2023 年 8 月
18	後藤 智	「2023 年度 EDGE+R プログラム メタバースコース」	立命館大学 EDGE+R プログラム, オンライン, 茨木市・立命館大学大阪いばらきキャンパス	2023 年 9 月
19	斉藤 賢爾	「最新 DX 推進論」	女性シニアリーダー育成プログラム, 東京都新宿区・早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター	2023 年 7 月
20	斉藤 賢爾	「組織・人間・言語モデル」	Beyond Blockchain 第 35 回, オンライン開催	2023 年 7 月
21	斉藤 賢爾	「メタ・ネイチャーを生きる : 本来の Web 3.0 と大規模言語モデルが溶け込む未来」	Future Lab. Online, オンライン	2023 年 7 月
22	斉藤 賢爾	「Ethereum 入門」	実践スマートコントラクトプログラミング, オンライン, 東京都中央区・ブロックチェーンハブ	2023 年 8 月
23	斉藤 賢爾	「ERC-20 トークンで土地を購入せよ」	実践スマートコントラクトプログラミング, オンライン開催, 東京都中央区・ブロックチェーンハブ	2023 年 8 月
24	斉藤 賢爾	「証明書を発行せよ」	実践スマートコントラクトプログラミング, オンライン, 東京都中央区・ブロックチェーンハブ	2023 年 9 月
25	斉藤 賢爾	「web3 技術のリアリティを体験せよ」	実践スマートコントラクトプログラミング, オンライン, 東京都中央区・ブロックチェーンハブ	2023 年 9 月
26	斉藤 賢爾	「DAO の原義と LLM」	Beyond Blockchain 第 37 回, オンライン	2023 年 9 月
27	北場 育子	福井県立博物館特別展「湖(みずうみ)」で最新研究成果を展示	福井県立博物館	
28	北場 育子	「日立 世界ふしぎ発見! 古代マヤ はじまりと終わりの謎に挑む」,	TBS	2023 年 4 月 15 日
29	北場 育子	「ちきゅうラジオ 特集「掘ってわかる!?マヤ文明」」	NHK	2023 年 6 月 18 日
30	北場 育子	「生と死、古代メキシコの世界へ!」	NKK	2023 年 6 月 18 日
31	北場 育子	「上白石萌音のはるかなる古代文明 マヤ」	NKK	2023 年 8 月 10 日
32	中川 毅	福井県立博物館 特別展「湖(みずうみ)」で最新研究成果を展示	福井県立博物館	
33	山田 圭太郎	福井県立博物館 特別展「湖(みずうみ)」で最新研究成果を展示	福井県立博物館	
34	山田 圭太郎	「県年縞博物館開館 5 年の特別展 若狭町」WEB NEWS	NHK 福井	2023 年 9 月
35	鎌谷 かおる	「NHK 有吉のお金発見 突撃! カネオくん うなぎについての解説」(VTR 出演)」	NKK	2023 年 7 月
36	高橋 学	「「下水のような」東京ディズニーランド周辺で謎の異臭騒ぎ」専門家「地殻変動で東京湾海底の天然ガスが漏れた可能性も」	FNN プライムオンライン	2023 年 4 月

37	高橋 学	「東京都千葉で謎の異臭騒ぎ 舞浜周辺でも「硫黄みたい」地 殻変動の影響」	FNN プライムオンライン	2023 年 4 月
38	高橋 学	「石川県能登で震度 6 強の地 震発生！「能登半島で連続発 生していたヤバい揺れ」	『週刊現代』	2023 年 5 月
39	高橋 学	「南海トラフなど太平洋側に 連動する恐れ石川で震度 6 強 災害史に詳しい専門家「大地 震起きる周期に入った」と警 鐘」	zakzak by 夕刊フジ	2023 年 5 月
40	高橋 学	「日本能登半島或進入地震頻 発期警惕南海海溝大地震」	鳳凰秀	2023 年 5 月
41	高橋 学	「能登などの地震頻発で分か った「次の巨大地震は首都圏 で起こる」日本列島に不気味 に忍び寄る“未曾有の大災害 ”専門家は「少なくとも数年 以内に……」	FRIDAY デジタル	2023 年 5 月
42	高橋 学	「千葉で震度 5 強…南海トラ フ連動、東京 23 区含む直下地 震に厳重警戒「三浦半島周辺 で起きるリスクも高い」	zakzak by 夕刊フジ	2023 年 5 月
43	高橋 学	「伊豆諸島で地震 40 回の不気 味…首都圏直下の前兆なの か？専門家の見解は」	日刊ゲンダイ DIGITAL	2023 年 5 月
44	高橋 学	「震度 5 弱以上の地震が 5 月 だけで 5 回目、なぜ頻発？「列 島全体にひずみがたまってい る…短期間に集中したことは 偶然」	zakzak by 夕刊フジ	2023 年 5 月
45	高橋 学	「世界中で 6000 万人以上が被 害に…「スーパーエルニーニ ョ」発生で日本は今夏、異常気 象に襲われる」	FRIDAY デジタル	2023 年 7 月
46	高橋 学	「世界の異常気象が示す「地 球の危機的状況」	FRIDAY デジタル	2023 年 8 月
47	高橋 学	「鹿児島県・トカラ列島で地 震 24 時間で 100 回超南海ト ラフとの関係は「周辺の火山 活動に警戒すべき」	zakzak by 夕刊フジ	2023 年 9 月
48	高橋 学	「「実は台風の影響で被害が 悪化する”世界同時多発”す る「山火事」の猛威に専門家が 鳴らす警鐘」	FRIDAY デジタル	2023 年 9 月
49	高橋 学	「プレートにひずみが溜まり 超危険… モロッコ大地震「1 万 km 離れた日本も他人事でな い」戦慄の事情」	FRIDAY デジタル	2023 年 9 月
50	玉井 良尚	「NEWS ドリル ウクライナの ダム決壊被害」(VTR 出演),『ワ イド！スクランブル』	テレビ朝日	2023 年 6 月 8 日
51	森下 直紀	「書評：藤川賢、友澤悠季編 『なぜ公害は続くのか：潜在・ 散在・長期化する被害』」	『図書新聞』第 3605 号	2023 年 9 月 2 日
52	小川 さや か	「書評 今週の必読・『食客論』 星野太」	『週刊文春』第 65 巻第 13 号	2023 年 4 月
53	小川 さや か	「人事のアカデミア 第 19 講 その日暮らしの人類学」	『RECRUIT Works』第 29 巻第 1 号, WEB 版: <a href="https://www.works-i.com/works/series/academia/detail019.html">https://www.works-i.com/works/series/academia/detail019.html</a>	2023 年 4 月
54	小川 さや か	「UX のタテヨコナナメ vol. 2 文化人類学者の小川さやかさ んに聞いてみた」	『スローメディア「TD」編集部』, <a href="https://www.td-media.net/interview/ux-tateyokonaname-vol2-ogawa-sayaka/">https://www.td-media.net/interview/ux-tateyokonaname-vol2-ogawa-sayaka/</a>	2023 年 4 月
55	小川 さや か	「読書／独自世界観もつ言語 の研究 (書評)『ムラブリ』伊 藤雄馬」	『日本経済新聞』30 面	2023 年 4 月

56	小川 さやか	「文化人類学者と考える「豊かさ」と「今」	WEEKLY OCHIAI (オンライン番組)	2023年5月
57	小川 さやか	「釈徹宗のだから世間は面白い NO.124」	『フォーレ』2023年6月号	2023年6月
58	小川 さやか	「2023年上半期の収穫から・44人へのアンケートー印象に残った三冊／村津蘭『ギニア湾の悪魔』、里見龍樹『不穏な熱帯』、酒井隆史『賢人と奴隷とバカ』」	『週刊読書人』第3499号	2023年7月
59	小川 さやか	「【前編】タンザニアの商人が遅刻を悪びれない合理的な理由」	『メディア「うにくえ」』 <a href="https://unique.kaonavi.jp/1962/">https://unique.kaonavi.jp/1962/</a>	2023年8月
60	小川 さやか	「【後編】2万円貸してくれる親友と200円くれる友だち。安心するのは？」	『メディア「うにくえ」』 <a href="https://unique.kaonavi.jp/1970/">https://unique.kaonavi.jp/1970/</a>	2023年8月
61	保井 智香子	「少しの工夫で減塩」	釧路新聞 9面	2024年1月15日
62	保井 智香子	「炭水化物は適量を」	静岡新聞 9面	2024年1月22日
63	保井 智香子	「少しの工夫で減塩」	北羽新報 5面	2024年1月23日
64	保井 智香子	「カルシウム摂取が不足」	北羽新報 7面	2024年1月25日
65	保井 智香子	「少しの工夫で減塩」	四国新聞 14面	2024年1月28日
66	小川 さやか	「《多思彩々》理解から「共にいる」へ転換」	信濃毎日新聞 4面	2023年10月
67	小川 さやか	「《多思彩々》現代的な形の「アジュール」を」	信濃毎日新聞 3面	2024年1月
68	矢野 健一	「縄文人と弥生人」	アスニーセミナー、京都市・京都市生涯学習総合センター(京都アスニー)	2024年2月
69	保井 智香子	「指導者・保護者が知ってほしい球児を育てるための栄養講座」	令和5年度野球指導者講習会、福井県・福井市	2024年1月
70	Noboru Miyawaki	「 JAPANS ENERGIEPOLITIK SEIT/NACH DEM ANGRIFF AUF DIE UKRAINE」	60 JAHRE DER STADTEPARTNERSCHAFT KOLN-KYOTO (Tenri Japanisch-Deutsche Kulturwerkstatt, Koeln,	2023年11月
71	宮脇 昇	「抑止力と外交力 国際紛争解決の新たな展望 北東アジアの一国平和主義・人口300万人のモンゴルを事例に」	コープ自然派, オンライン	2023年11月
72	小川 さやか	「無条件の条件ー文化人類学における「他者」理解をめぐって」	青天白雲塾, 東京都千代田区・ステーションコンファレンス	2023年10月
73	斎藤 賢爾	「私たちはどう生きるか」	京大 首藤研 お披露目会, 京都市左京区・京都大学	2023年10月
74	斎藤 賢爾	「Web3 技術のリアリティ」	ONIC (Open NetworkIng Conference) 2023, 長野県軽井沢町・軽井沢大賀ホール	2023年11月
75	後藤 智	「次世代・未来の学びトークセッション〜メタバース×教育の事例から〜」	坂井冬樹, 富岡奈津代, 水瀬ゆず 第15回 OIC CONNECT, 茨木市・立命館いばらきキャンパス	2023年11月
76	小川 さやか	「ままならない社会を楽しむ」	ルッチまちづくり大学, 米原市・米原市役所本庁舎	2023年12月
77	小川 さやか	「市場経済と贈与経済を横断するータンザニアのデジタル・インフォーマル経済ー」	日本生産性本部 次世代経営人材育成プログラム, 宇都宮市・足利銀行研修センター	2024年1月
78	小川 さやか	「「その日暮し」から見える社会的共通資本ーインフォーマル経済から考えるコモンズ」	宇沢弘文を読む会, 東京都渋谷区・代官山ヒルサイドテラス	2024年1月
79	小川 さやか	「パネリスト:現代人の『生きづらさ』の本質とは」	ディスカッション「歴史から学ぶーこの地球的危機に人類はどう立ち向かうべきか?」, 地球危機の時代に、どう挑むべきかー異分野をつなぐ「総合知」を目指して, 京都市・立命館朱雀キャンパス	2024年1月

80	後藤 智, 中村 大	「デザインリサーチ入門&手法① デザインリサーチと考古学」	鈴木信太郎 デザインリサーチの方法論ービジネスにインパクトを与える人文社会科学,京都市中京区・立命館朱雀キャンパス	2024年1月
81	小川 さやか	「デザインリサーチ入門&手法② エスノグラフィー・プロトタイピング」	デザインリサーチの方法論ービジネスにインパクトを与える人文社会科学,京都市中京区・立命館朱雀キャンパス	2024年2月
82	斎藤 賢爾	「事業へのブロックチェーンの応用:それは何のためにあるのか、課題は何か、適切な設計アプローチは何か?」	京都大学 大学院情報学研究所 特別講演, オンライン開催	2024年1月
83	斎藤 賢爾	「オープンゼミー公共の利益のためのデジタルトランスフォーメーション 続・衣食住をテクノロジーで不自由なく」	オンライン開催	2024年2月
84	斎藤 賢爾	「都の西北で AI(アイ) を叫ぶ(準備編)」	カデミーキャンプ 2024 冬, 東京都新宿区・早稲田大学	2024年2月
85	中川 毅,北 場 育子	寄稿「水月湖が語る過去、現在、未来の地球」	JR 東日本 新幹線社内誌トランヴェール	2024年3月
86	Yamada, K.	「Rgrains」(画像解析ソフトウェア・解説書付)	[ <a href="https://github.com/keit_royamada/Rgrains">https://github.com/keit_royamada/Rgrains</a> ]	2023
87	Yamada, K.	「Ranalyser」(統計解析ソフトウェア・解説書付)	[ <a href="https://github.com/ke_itaroyamada/Ranalyser">https://github.com/ke_itaroyamada/Ranalyser</a> ]	2023
88	山田 圭太郎	民間企業(パレオ・ラボ)との共同研究に伴う研究協定を締結		2023年11月
89	高橋 学	「仏大学の論文で明かされた「大地震発生の約2時間前に共通して起きる異変」	「予知研究に一筋の光か」, NEWS ポストセブン	2023年10月
90	高橋 学	「能登半島地震は2020年から675回…自身は頻発も“本震”までエネルギーが分散されない?」	日刊ゲンダイ	2024年1月
91	高橋 学	「石川県で震度7、能登半島地震 高橋学特任教授が“次のM7 級警戒地域”に見解「今回の震源域から北海道南西沖や宗谷岬に…」	SmartNews 他,	2024年1月
92	高橋 学	「北陸の揺れどう見る?南海トラフ巨大地震の現実味、警鐘を鳴らしていた専門家に改めて聞く」	日刊ゲンダイ DIGITAL	2024年1月
93	高橋 学	「能登半島地震で太平洋プレートが活発化している可能性 南海トラフ地震には引き続き要警戒」	NEWS ポストセブン	2024年1月
94	高橋 学	「「地滑りが発生しやすい」「海岸線ギリギリの家屋」	「地震被害が大きくなりやすい能登半島ならではの特徴とは」, AERA. dot	2024年1月
95	高橋 学	「能登半島地震 震源の活断層を誰も知らなかった衝撃 「未知の活断層は列島に3万本」と専門家」	日刊ゲンダイ DIGITAL	2024年1月
96	高橋 学	「大阪万博のずさんすぎる「防災計画」、地震・津波・台風など災害発生で来場者は孤立必至」	日刊ゲンダイ DIGITAL	2024年1月
97	高橋 学	「《スーパー南海地震 最悪のシナリオ》能登半島地震で懸念「首都直下地震」と「南海トラフ地震」2つの巨大地震で大阪万博中止の可能性 「生き残るためには」	週刊女性 PRIME	2024年1月
98	高橋 学	「日本専門家：警惕能登地震或	香港鳳凰電子台	2024年2月

		是南海海溝大震前兆30年内発生大地震機率達七八成」		
99	高橋 学	「千葉で4日間に17回、熊本に能登半島…群発地震が巨大地震につながる可能性は？」	日刊ゲンダイ DIGITAL	2024年3月
100	高橋 学	「千葉で地震頻発、また揺れた 5日間で18回…南部と東方沖の危険な兆候 高橋特任教授「そろそろ関東大震災並みの揺れも」	zakzak タ刊フジ	2024年3月
101	高橋 学	「千葉地震、6日間で計24回 東方沖を震源に東北、九州など太平洋沖で警戒 プレート境界面で「スロースリップ」現象検出」	zakzak タ刊フジ	2024年3月
102	高橋 学	「頻発する東方沖地震の不気味…そして懸念される「能登と千葉の類似性」	日刊ゲンダイ DIGITAL	2024年3月
103	高橋 学	「ビートたけしのTVタックル 能登半島地震から2ヶ月…南海トラフ・首都直下地震大國ニッポンが抱える問題を徹底討論SP」	TV朝日	2024年3月
104	高橋 学	「大津波襲来で「死者47万人」 南海トラフ、千葉県東方沖の群発地震『令和の関東大震災』につながる可能性「能登も前兆の一つ」	zakzak タ刊フジ	2024年3月
105	高橋 学	【千葉県沖で地震頻発】専門家が“周期”を指摘「1912年、1950年、1987年にM6以上の地震が37～38年周期で繰り返している」	NEWS ポストセブン	2024年3月
106	高橋 学	【緊急警鐘】東日本大震災直前と酷似している…専門家が分析「「スーパー南海地震」が確実に近づいている」	FRIDAY DIGITAL	2024年3月
107	郡山 志保	「江戸時代の飢饉対策―備荒貯蓄の実施」	ライスボールセミナー、オンライン開催	2023年11月
108	玉井 良尚	「誰が水の安全保障を破壊するのか:「水の武器化」をめぐる国際人道法の課題からの考察」	『現代思想』2023年11月号, 青土社, pp. 39 -49	2023年10月
109	玉井 良尚	「ガザ攻撃にみるイスラエルの『水の武器化』」	『現代思想』2024年2月号, 青土社, pp. 127 -137	2024年1月
110	西尾 善太	「『現代フィリピンの地殻変動』を振り返って:応答の場としての地域研究」	『京都大学東南アジア地域研究研究所 ニューズレター』No. 80, pp. 29-34	2023年10月
111	中村 大	「書評 古谷嘉章・石原道知・堀江武史著『縄文の断片から見えてくる』」	『週刊読書人』2023年10月20日号6面	2023年10月
112	小川 さやか	「【特別対談】タンザニアを見れば、日本の未来が見えてくる～資本主義、SNS、人付き合い (柴山桂太×小川さやか)」	『表現者クライテリオン』番組出演 (Youtube)	2023年10月
113	小川 さやか	「インタビュー 文化人類学者・小川さやかさんから学ぶ、「真の多様性」に近づくヒント」	F. I. N. ( FUTURE IS NOW ) https://fin.miraiteiban.jp/shin_no_tayousei/, 未来定番研究所 (株式会社 大丸松坂屋百貨店)	2023年11月
114	小川 さやか	「学びの世界を探る ハカセの謎を追え! 第4回 小川さやかさん」	『ETHICS for YOUTH』No. 4 Winter2023-2024, 一般社団法人実践倫理宏正会, pp. 28-29	2023年12月
115	小川 さやか	「異文化は理解できない」	VOOX 番組出演 (音声メディア) https://www.voox.me	2024年3月

116	シン・ジュ ヒョン	「書評 ユンテェジン・キム ジュン著『女性ゲーマーは銃 を撃つことができるだろう か』」	『Game Generation』【ウェブ掲載】	2023年10月
-----	--------------	---	--------------------------	----------

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	内尾 太一	日本地理教育学会	日本地理教育学会出版文化賞	「エピソード 58 災害と復興 東日本大震災後の被災地の人 びとはどのように暮らしてきた のだろうか」	2023年8月
2	荘司一歩	松下幸之助記念志財団	「松下正治記念学術賞」		2024年2月
3	玉井 良尚, 山上 亜紗 美(共同受 賞)	日本シミュレーション&ゲーミング 学会	2023年度日本シミュレー ション&ゲーミング学会 奨励賞	「国境・防疫ゲーミングの開発 と実践」	2023年11月

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	北場 育子	古代マヤ人が直面した「リアルな」危機： マヤの年はなぜ衰退したのか？」	科学研究費補助金 [基盤研究(B)]	2023年4月	2027年3月	代表
2	中川 毅	古代マヤ人が直面した「リアルな」危機： マヤの年はなぜ衰退したのか？」	科学研究費補助金 [基盤研究(B)]	2023年4月	2027年3月	分担
3	河角 直美	歴史 GIS による京都の都市景観復原と地 形の居住地選択への影響に関する研究	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2020年4月	2024年3月	代表
4	河角 直美	「紀伊半島の海付集落を対象とする社 会・空間・被災史デジタルアーカイブの構 築と公開」	科学研究費補助金 [基盤研究(B)]	2021年4月	2025年3月	分担
5	島田 伸敬	指使いの視触覚統合モデルによる柔軟物 の加工作業—ハンド表面の分布荷重の統 合—	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2021年4月	2024年3月	代表
6	鎌谷 かお る	石見銀山附幕領における銀山・銅山・鉄山 —非農業世界からみた「幕領社会」論の構 築—	科学研究費補助金 [基盤研究(B)]	2021年4月	2026年3月	分担
7	中村 大	初期国家形成期における山城地域の地域 開発と地方政体の成長に関する包括的研 究	科学研究費補助金 [基盤研究(B)]	2022年4月	2027年3月	分担
8	宮脇 昇	国際・国内公共政策決定過程における沈 黙利用の分析	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2022年4月	2026年3月	代表
9	玉井 良尚	国際・国内公共政策決定過程における沈 黙利用の分析	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2022年4月	2026年3月	分担
10	SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	Modern Cities and Archaeology: A Study on the Revalorization of Archaeological Remains from a Cultural Heritage Perspective	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2022年4月	2026年3月	代表
11	小川 さや か	アフリカ諸国における暗号通貨を利用し た国際取引に関する人類学的研究	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2020年4月	2025年3月	代表
12	小川 さや か	インフォーマル化するアジア：グローバ ル化時代のメガ都市のダイナミクスとジ レンマ	科学研究費補助金 [基盤研究(A)]	2019年4月	2024年3月	分担
13	小川 さや か	気候危機ナラティブに対するアフリカ遊 動社会研究からのカウンターナラティブ の形成	科学研究費補助金 [基盤研究(A)]	2023年4月	2028年3月	分担
14	鎌谷 かお る	地域再生可能エネルギーに関する歴史・ 社会・経済の統合型研究	科学研究費補助金 [挑戦的研究(萌芽)]	2022年4月	2025年3月	分担
15	富田 敬大	社会主義モンゴルにおける牧畜の産業化 と自然災害に関する研究	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2022年4月	2024年3月	代表
16	近藤 宏	南米コロンビアの都市避難先住民から見 る「多文化主義」をめぐる人類学的研究	科学研究費補助金 [若手研究]	2019年4月	2024年3月	代表
17	森下 直紀	アニシナベ先住民の食の同化政策をめぐ る生活環境史	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2020年4月	2024年3月	代表

18	遠部 慎	山稜・山間に展開した弥生時代の人間活動に関する実証的研究	科学研究費補助金 [基盤研究(B)]	2021年4月	2025年3月	分担
19	栗畑 光博	先史巨大噴火の生業への影響に関する動物考古学的研究	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2021年4月	2025年3月	分担
20	小野 映介	北限の水稲農耕文化は海峡を越えたかー水稲農耕文化の拡散過程の研究ー	科学研究費補助金 [基盤研究(A)]	2023年4月	2027年3月	分担
21	中村 大	東北北部の縄文時代人口の推計および人口変動と祭祀や墓制の変化との関連性分析	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2019年4月	2025年3月	代表
22	中村 大	日本列島域における先史人類史の総合的復元方法の研究 (総括班)	科学研究費補助金 学術変革領域研究(A)	2023年4月	2028年3月	分担
23	中村 大	先史人類の人口動態に関する研究 (計画研究)	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2023年4月	2028年3月	代表
24	Corey Nixon	先史人類の人口動態に関する研究 (計画研究)	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2023年4月	2028年3月	分担
25	稲垣 文昭	気候変動レジーム下における権威主義的資源国の政治体制の持続性に関する実証的研究	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2023年4月	2026年3月	代表
26	稲垣 文昭	構造変革期における経済制裁の変容	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2021年4月	2025年3月	分担
27	稲垣 文昭	中央アジアの電力網を事例としたエネルギー資源分配の国際公共財化の可能性	科学研究費補助金 [基盤研究(C)]	2020年4月	2025年3月	代表

8. 科研費を除くすべての外部資金 (政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	鎌谷 かおる	「菓都大津」再興プロジェクト	グラスルーツ・イノベーションプログラム (GRIP)	2023年7月	2024年3月	代表
2	鎌谷 かおる	「近世日本における気候変動と食料問題の研究」	2023年度奨励研究プロジェクト	2023年4月	2024年3月	代表
3	鎌谷 かおる	「近世における飲食環境と発酵食」	研究推進プログラム (科研費獲得推進型)	2023年4月	2024年3月	代表
4	鎌谷 かおる	「大津の食文化 (和菓子・酒造) 資料調査業務」	大津市歴史博物館 受託研究	2023年4月	2024年3月	代表
5	鎌谷 かおる	「典籍に基づく日本文化の再発見 (食・装い)」	国文学研究資料館 学外共同研究	2023年4月	2024年3月	代表
6	荘司 一步	「先史アンデス海岸地域におけるジャガイモ利用ー歯石DNAと安定同位体を用いた農耕・漁労複合の検証ー」	三菱財団法人科学研究助成	2024年1月	2024年12月	代表
7	坂本唯	「原発避難者の被災経験の記憶と想起ーものづくり実践を中心に」	特別研究奨励費	2022年4月	2025年3月	代表
8	稲垣 文昭	「地中熱利用による脱炭素化型熱エネルギー供給システムの構築」	科学技術振興機構、国際協力事機構 SATREPS 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム	2021年5月	2026年3月	代表
9	シン・ジュヒョン	「ゲームアクセシビリティの社会的価値に関する研究」	公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団研究助成研究B	2023年12月	2025年2月	代表
10	シン・ジュヒョン	「日本・韓国の歴史シリアスゲームにおける「歴史」の絵描かれ方と倫理的問題」	公益財団法人上廣倫理財団研究助成	2022年4月	2027年3月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録 (特許) 番号	国
1	中村大・後藤智	デルの作成支援システム、コンピュータ実装方法及びコンピュータプログラム (国内)	共同	共同発明者	特願 2023-146293	なし	なし	日本